

第 65 回八王子市民大会 **中学部決勝戦レポート** 八王子サッカー協会技術委員会

日時：11月20日（日） 16時30分キックオフ

会場：八王子 戸吹グラウンド

$$\text{ARTE 八王子 } 3 \left\{ \begin{array}{l} 1-1 \\ 1-1 \\ \text{延長} \\ 0-0 \\ 1-0 \end{array} \right\} 2 \text{ Branco 八王子}$$

今大会は中学生最後の公式戦となる試合ではあったが、高校受験を間近に控えた2学期の期末テストの最中であり、参加したくてもできない選手が多く両チーム共にベストな状態ではないようであった。しかし両チームとも高円宮杯の東京大会に進出したチーム同士の決勝戦であり、気合は十分、試合前の円陣の声からは絶対に勝つぞという気迫が伝わってきた。

キックオフのホイッスルから攻撃を仕掛けたのは **ARTE**、まだラインが整わない **Branco** の左サイドバックの裏へ9番が抜け出し、ペナルティエリアへ仕掛けコーナーキックを得た。コーナーキックを味方が上手く胸で落としシュート、ゴールのわずかに左に逸れたものの気合の入ったシュートであった。**ARTE** はディフェンスラインから中盤へボールを繋ぎ、前線へ上手く楔のパスを通し何度も中央突破を試みるが、**Branco** 守備陣のチャレンジ&カバーが徹底されており、バイタルエリアへはなかなか侵入できない場面が続いた。

その後 **Branco** は、**ARTE** の楔のパスを狙ったパスカットから、**ARTE** のディフェンスラインの裏をつくロングボールで速攻を仕掛けるが、**ARTE** のラインコントロールが上手くオフサイドとなり、なかなかチャンスを作れない状況が続いた。**Branco** が攻撃パターンを修正し、いったん中盤で納めたボールを左右にしっかりと繋ぎ始めるとチャンスが訪れた。左サイド4番から中央に走り込んだ9番に合わせ、9番がドリブルで仕掛けGKと1対1となったが、GKのファインセーブで得点にはいたらなかった。

両チームの中盤でのボールの奪い合いは激しく、お互いに相手へのプレスが速くパスが繋がらない状況が続いたが、**ARTE** のコーチから「ボールを失うな」と指示が出た直後、中盤で丁寧にボールを繋ぎ、右サイド26番が中央ドリブルで切れ込み14番へパス、中央に駆け上がった12番にパスを繋ぎシュート、これが先制点となった。

しかし、前半終了間際に **Branco** はFKのボールを中盤が納め、右サイドバックが駆け上がりボールを受けペナルティエリアへドリブルを仕掛けたところ、**ARTE** のDFに倒されPKを獲得した。これを8番がゴール左隅にきっちりと決めて、前半を1対1で折り返した。

後半に入り **ARTE** は、中盤からのロングボールで何度もチャンスを作りシュートを放つが、GKのファインセーブに阻まれ得点とはならず、**ARTE** 中盤の足が一瞬止まったとこ

ろ、**Branco** が中盤でパスカット、バックパスで一旦ボールを落ち着かせ右サイド23番へパスを繋ぎセンターリング、中央に駆け上がった11番が滑り込みながらの見事なスライディングシュートで逆転とした。

その後、両チームともに少し疲れが出たのかパスの精度が落ち、なかなかパスが繋がらない状態が続きロングボールを蹴る場面が多くなった。しかし、そのロングボールから**ARTE** のFWが高い位置でボールを奪い、7番から9番へ繋ぎドリブルからシュート、相手に当りコーナーキックを得る。コーナーキックの場面で7番が相手DFのマークを上手く外しニアサイドへ走り込みジャンプをしながらのバックヘディング、ボールはGKの頭上を越えゴール、2対2の同点となって後半が終了した。

延長戦に入っても両チームとも中盤での激しいボールの奪い合いが続いたが、お互いにチャンスは作れずに延長戦の前半は0-0で終了。

延長戦の後半に入ってもお互いに決定的なチャンスは作れなかったが、終了間際に**Branco** が**ARTE** 陣内に襲いかかりペナルティエリア内で何度もシュートを放つが決め切れず、**ARTE** のDFが前に大きくクリアしたところ、中盤に残っていたFW18番が上手く飛び出してボールを受け、相手DFを振り切りドリブル、GKと1対1となり上手くゴールに流し込んだ。これが決勝点となり**ARTE** が見事に優勝を掴み取った。

## <技術委員会からのコメント>

ジュニアユース年代の最後の戦いとなった市民大会の決勝戦、さすが東京都大会へ進出したチーム同士の戦いであり迫力があつた。また、3年間積み重ねてきた練習の成果を出し切りたいという想いと、悔いを残したくないという想いからお互いに一步も譲らない素晴らしい試合となり、見ている観客にもその想いが伝わってきた。素晴らしい戦いを展開してくれた両チームの選手達に拍手を送ると共に、さらにユース年代で大きく羽ばたいてくれることを祈って、技術委員会から2点ほどアドバイスを送りたい。

### 1 両足のファーストコントロール技術をさらに高めよう

ハイプレッシャーの中でのファーストタッチは、相手よりも早くボールに触らなければならない為、ボールに向かいながらのプレーとなるが、その場面でのファーストコントロールが上手くできている選手が少なかった。また、利き足でのコントロールが多いため、利き足の方からのプレッシャーがあつた場合のファーストコントロールでボールを失う場面も多く見られた。ユース年代ではより一層プレッシャーが速く強くなるため、体幹を鍛えぶれない身体づくりと、両足で意図のあるファーストコントロールができるよう普段の練習から心掛けてほしい。

### 2 判断のスピードをさらにアップさせよう

両チームとも守備の面では判断が速く、相手にプレッシャーをかけ続けていたが、攻撃

の面ではボールを受けてから何をするかを考えている選手がまだ多いように感じた。自分がボールを受けた位置からゴールをするまでを逆算し、味方選手の位置、相手選手の位置、スペースがどこにあるのか、そのスペースが味方と共有できるのかを常に観て情報を入れ、選択肢の多くなるポジショニングと、次のプレーへの早い判断ができるよう常に意識をしながらプレーをしてほしい。

ジュニアユースでの公式戦はこの試合が最後となる選手が多いと思うが、3年間指導してくれた監督やコーチ、支えてくれている家族がいればこそサッカーができたという感謝の気持ちをいつまでも忘れずに、これらのことを意識し考えながら練習に励み、ユース年代で君達がさらなる成長を遂げることを期待している。